

女性将棋初段免状獲得戦を応援するにあたって

今年4月に西山朋佳奨励会三段の奨励会退会の一報を聞いたとき、私は少しの落胆と大きな喪失を感じていた。それは彼女が四段と成って棋士になることができれば、将棋にとどまらないパラダイムシフトをもたらすと確信していたからだ。野球のイチロー選手が米国で安打を重ねたように、彼女の積み重ねる勝ち星のひとつひとつに大きな期待を抱いていた。

しかし、有望な奨励会三段が年齢制限を待たずに退会するというケースはこれまでもあったし、なにより退会は彼女個人のものである。ならばなにか自分でできることをしようと思い、女性への将棋の普及を促進するための将棋大会開催を北尾先生にお願いすることになった。

初段免状獲得戦とした理由は、初段が将棋を指す多くの方の目標であることがひとつ。そして、これまで私には、大会で勝って獲得した初段免状が誇らしく見え、羨ましく思ってきたからだ。この誇らしい気持ちを経験してもらい、また、初段を獲得した仲間をモチベーションに将棋を続けて欲しいと思っている。

私が将棋の女性への普及に興味を持っている理由は、私の本業とも関係する。私は物理の研究しているのだが、女子学生、大学院生、女性の教員が極端に少ない。物理に限らず、いわゆる理系への女子の進学率や女性の教員の数は少なく、社会問題となってきた。この状況の理由は様々指摘されているが、将棋の女性への普及が進みにくい理由とよく似ている。まず、理系科目・将棋が女性に不向きであると信じられていること、そして、既に男性中心のコミュニティが出来上がってしまっていることが挙げられる、国外へ行けば、物理分野における女子学生率は50%には届かないものの、日本に比べ数倍ほど高い国がいくつも存在する。これは日本の女性の理系へ進学の実況が性差による向き不向きのみで説明することはできないことを示している。

将棋でも、2018年、野原未蘭女流初段が男女の区別のないカテゴリで中学校選手権を優勝して話題となった。そして、その野原さんでも翌年の高校選手権の女子部門では優勝できていない。少なくとも私が高校生だった25年前に比べて、女子高校生の人数も将棋レベルも圧倒的に上っている。これまでの普及活動の成果と

して女子将棋人口が増加し、女子のトップのレベルが引き上げられたと考えるのが自然だと思う。女子の将棋人口が増え、三段リーグにも女性が増えれば、今よりずっと女性が力を発揮しやすくなり、棋士への道も近づくはずだ。

また、私は今年の7月末から、小学4年生と年長の2人の姪にオンラインで将棋を教えている。彼女たちは、将棋ウォーズや81dojoで将棋を指すことはあるが、コロナ禍や、地方に住んでいることもあり、まだ家族以外と対面で将棋を指したことはない。しかし、いつか対面での将棋大会に出たときに出場者が男子ばかりであることに驚きはしないだろうか。いつか棋士の将棋を観戦するようになり、棋士に男性しかいないこと気がついたときにどのように感じるだろうか。

彼女らも将棋を続ければ棋力が伸び悩むときがきて、いつか自分の能力について思いを巡らすときがだろう。そのときに、女性であることを理由に将棋を諦める世界であっては欲しくないと思う。

現在、三段リーグでは中七海三段が女性としては孤軍奮闘中である。私は彼女が棋士なることを期待せずにはいられない。しかし、他の男性奨励会員と同じように彼女個人の戦いとして、のびのびと戦える環境であってほしいとも願わずにはいられない。蛸島女流六段から始まった歩みは、中井女流六段の公式棋戦での対男性棋士初勝利、里見香奈女流四冠の三段リーグでの奮闘などの象徴的な節目を経て、着実に進んでいる。これからも彼女たちの活躍と女性への将棋の普及を応援し続けたい。

最後に、将棋は老若男女が同じ盤を挟んで対等に楽しめる素晴らしいゲームです。

少しでも多くの女性が気兼ねなく将棋を楽しみ、棋力向上を目指す仲間を見つけ、永く将棋を楽しんでほしいとの思いで、この大会を応援しています。この大会がその一助となり、少しでも将棋を楽しむ女性が増えると嬉しいです。